

2020/9/27

(うとQ世話し 捨てる神あれば拾う神あり?)

「馬脚を現す」

つまり、それ迄立派に見えていたものが、何かの経緯で馬の脚の高さ分、嵩上げされた上げ底の見せ掛けだった事を露呈する事の映像的な譬えです。

そういう意味では、現コロナ禍において、周囲に突如現れた「馬脚群」により、自分の認識上、これ迄「真」だったものが「偽」に変じつつあります。

つまり同音異語で「信義」の揺らぎの発生。

余り具体的に書くと差し障りがありますので、ぼかして書きますが、本日はその一例を。昨日突如、全く同じデザインレイアウト仕様の督促状が4通同時に舞い込んで参りました。配達証明付きで。

見ると同一会社から。

どう多めに見ても2通で済む処、いや場合によっては1通でも問題のない処を、ご丁寧にわざわざ小分けにして4通、しかも36ポはあるかと思われる表情の無い黒々としたカクカク明朝体大書文字での宛名書きでドドーンと4通。

これには郵便配達員の人も4通並べてみての4役揃い踏みの圧巻姿に、流石口元が緩んで、少し苦笑。

どうやら相手は威嚇のつもりでそうしたのでしょうが、何か幾分度が過ぎていて虚仮脅し(こけおどし)の意図がくっきりと透けてしまったのがその苦笑の原因かもしれません。

余談はさておき、

更に、さらさら、中の書面を読めば、金曜日起日を出して、金融機関の窓口業務を行っていない昨日土曜日に配達され、本日、日曜も入れると既に3日経過済が判明。

支払期限まで余す処、後4日しか残っていない。

オマケに、というかこれが一番肝心なのですが、記載された未払い額が倍以上にもなっている。

契約書上の未納限度額と未納期限はぎりぎり守っていたつもりであったし、相手をそういった目で疑ったことがこれまで一度もなかったので、正直、これには本当に驚きました。

書面では更に、5か月未納とありましたが、本件に関しては、今まで一回も書面又は電話での催促やフォローはなし。

確かに、満額支払出来ない月もあったことは事実ですが、それを除けば毎月ギリギリながらもきちんと振り込んでいる(コロナ禍の飲食業者である自分にとってこれは実に大変な事なのですが)

しかも支払期限未到来の今月分迄未納扱として加算表記されているようでしたが、その月毎の内訳明細が添付されていないので請求総額の算出根拠が分かりません。

もちろんきれいに毎月満額支払をしていない自分が一番悪いことはわかっておりますが、現在は平時とはいささか状況が異なります(それも自分勝手な言い訳と言われればそれま

でのことですが。とはいえ、とはいえ、さわ、さりながら)

で、即座に相手に中身の説明を求めて電話をかけても出てこない(やむなく留守電)

しかし、二回目も同じ(またもや留守電に要件と折り返し電話を要請)

仕方がないので、本日日曜、既に金策を願い出ている支援者と面談の後、了解が取れば、明けて月曜日に兎に角、相手の言う満額を一旦、振込むことにしました。

(その旨はすでに電話で未納請求元には「見る前に飛べ」とばかりに約束事として空手形を切ってしまっております)

その上で、支払いに関しては、今のところ長と出るか半と出るかは分かりませんが、取り敢えずの手を打った後にできる時間を使って、きちんとデータを集めて精査をし、エビデンスを取り揃えるつもりです。

そして、この「奇妙さ」がきちんと論理的に証明できるようになったら、それなりの手段を講じる。

兎に角、かくのごとく周囲が馬脚だらけでは真偽の見極めがつかなくなり、誤判断の元なりかねないので、いったん整理、総ざらいをする必要がありそうです。

ですが、逆にこんな時こそ「まさかの友は、真の友」(まさかの時の友達こそ本当の友達だの意)を見つけ、真偽整理の上、この面でもニューノーマルを見つける絶好のチャンスになるかもしれません。

その取捨選択の整理の仕方を我が国の諺を用いていえば

「捨てる神あれば拾う神あり」

というのが本日のオチというところでしょうか。

追記)

本日、手前どもの台所事情の長広舌、お許しくださいませ。